

# 経営予測エイジ

Forecast Age For Management

**[今月の焦点]**

**「がんばろう日本」は  
どこに行った?**

**[EDITOR'S CHOICE]**

**「モノ言う」  
企業年金連合の変節**





# 「がんばろう日本」はどこに行った？



1年ぶりに帰国した日本で、日本人の残酷さに直面して愕然としている。世に言う「風評被害」である。福島県産というだけで買わないか、抗議の電話やメールを送りつけるだけ。それも「抗議の声」なるものには「不安の声」という「衣」をかぶせるのだから始末が悪い。当局側は理をつくして説得するわけでもなくビクつくだけで、結果は「中止」で幕を引く。何という卑劣な残酷さ。「がんばろう日本」なんて言っていたのは、どこに行ってしまったのか。

## 「抗議」「不安」だけが肩で風切る

例えば、京都五山送り火の一騒動。愛知県日進市の花火騒ぎ。福島県産というだけでの、食品への拒絶現象。これ以外にもヒステリー現象は数知れず存在するに違いない。ほとんどは感情的なもので、思いこみだけで同じ日本人に対して拒絶反応を起こすのだから、卑劣な振舞いと言うしかない。こんな人は自分の胸に聞いてみることだ。不幸に見舞われてしまった同胞に対してかくも残酷になれるのが、他の誰でもなく自分なのだ、と。

この恥ずかしい騒ぎの中でも最も情けない現象が、がれき処理をめぐる騒動である。処理への協力を申し出たのが東京都と山形県だけと知って、私はまたも愕然となった。しかも今のところ処理しようとしているのは、原発とは無関係の岩手と宮城だけでのものではないか。最初は、処理に手をあげたのは42都道府県572市町村だったのに、住民側からの抗議と不安の声に寄りきられて、上げていた手も下げてしまった。

まるで今の日本は「抗議」と「不安」だけが肩で風切っているようだ。それを支えているのが、自分の考えることだけが正義であるという思いこみ。この種の思いこみくらい、互いに力を合わせ

ないと機能していかない住民共同体にとっての害毒はない。各地で起っている放射能騒ぎに至っては醜悪以外の何ものでもない。「おしゃもじ」が「放射能測定器」に変わった一昔前の主婦連を思い出してしまった。このような母親を見ながら子供は健全に育つと思っているのだろうか。

## 震災を契機に卒業しよう

今回の原発事故で、日本人は「絶対安全」などというのは神話にすぎなかったと知ったのではなかったか。それなのに、ミリシーベルトとかベクレルとかを唱えることで、もう1つの「絶対安全」を求めようとしているのか。

東日本大震災という不幸を契機に、せめては絶対安全神話から卒業しようではないか。そして、風評被害の加害者になることから卒業し、日本全体で処理することによって、がれきからも卒業しようではないですか。◆

### NEWS SOURCE

文藝春秋(12月号)

定価800円

掲載頁：92～93

発行所：文藝春秋

電話：0120-622-808 (定期購読窓口)

筆者：作家(在イタリア) 塩野七生